資料3

伊豆市を
もっと好きになるために

子育て全力宣言 伊豆市

伊豆市を、もっと好きになるために

子育て全力宣言 伊豆市

【令和4年度の委員発言】

「私が伊豆市に移住してきたとき、住んでいる人に“なんでこんなとこに引っ越してきたの？”と言われ、ショックを受けた。」

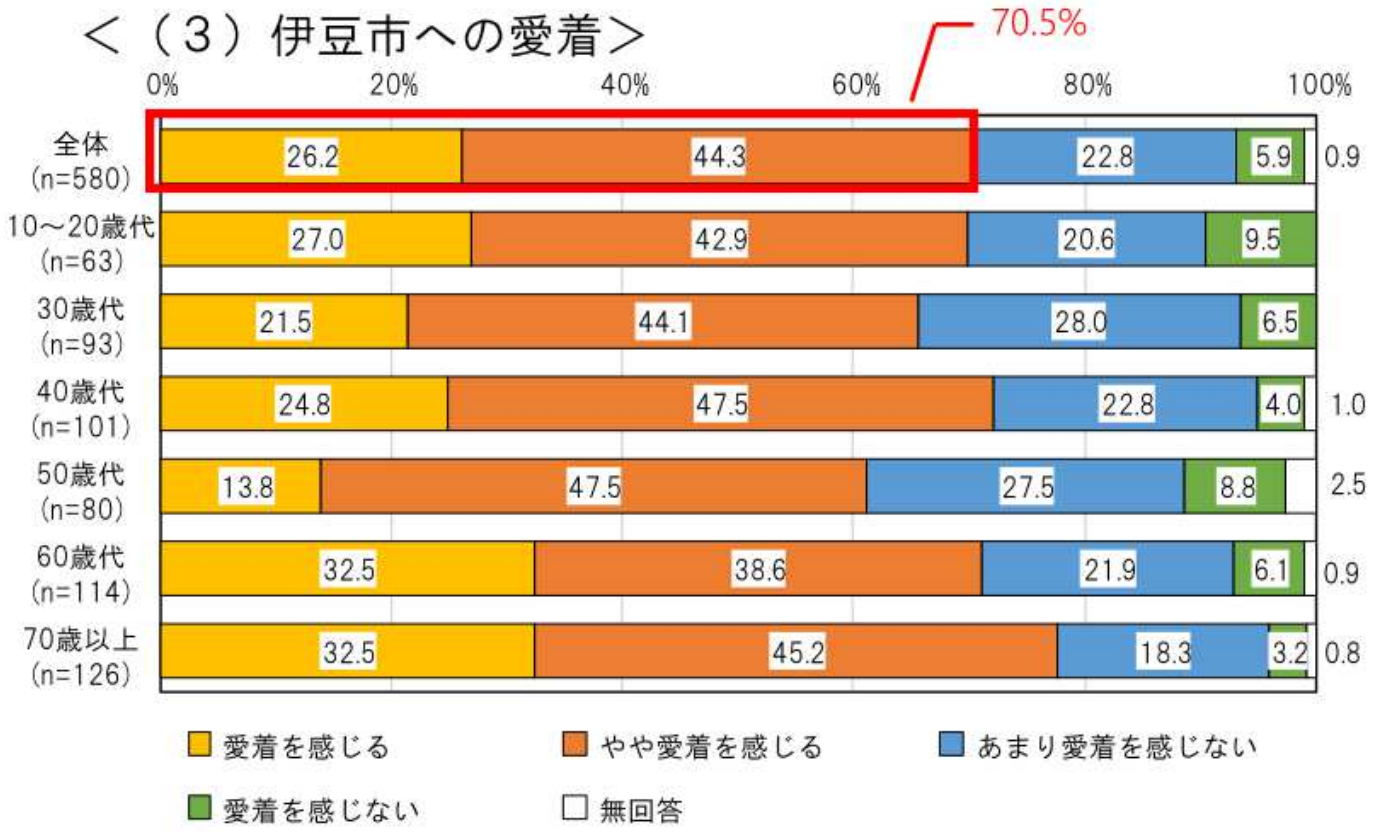
■伊豆市民自身が伊豆市をもっと好きになってもらう事が大切ではないか。



令和4年度　まち・ひと・しごと創生総合戦略検討会議の様子

伊豆市を、もっと好きになるために

【伊豆市への愛着　：　70．5%】
・愛着という曖昧な気持ちを客観的に評価・深く考察するために「mGAP」というを手法を活用！！



令和5年度　市民アンケート調査結果

伊豆市を、もっと好きになるために

子育て全力宣言 伊豆市

（４）まちへの推奨・参加・感謝意欲

“伊豆市への愛着”という曖昧な気持ちをｍＧＡＰ（※1）という手法により客観的に評価

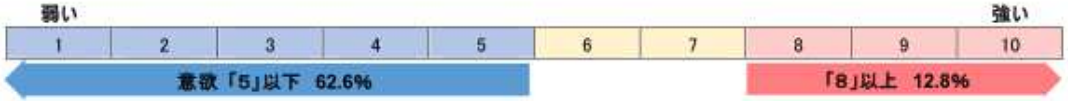
全体をみると、3指標合計は−223 ポイントとなっている。また、「地域推奨度」が-144 ポイントと最も低い数値となっている。伊豆市を知人友人に対し「推奨」する気持ちが高くなる取り組みを行うことで“伊豆市への愛着”が高まり、まちの活力の維持につながる。

算出結果

低い

・**地域推奨度**　（ -62.6 + 12.8 ）× 2.9 = -144

伊豆市を知人友人におすすめする気持ちはどの程度ですか。



低い

・**地域参加度**　（ -61.6 + 15.4 ）× 2.9 = -134

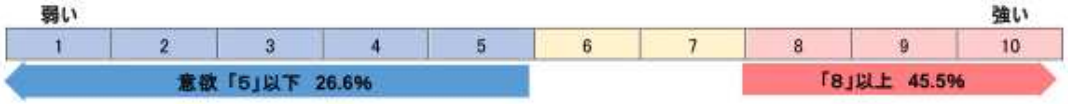
伊豆市をよりよくするための活動への参加や行動しようとする気持ちはどの程度ですか。



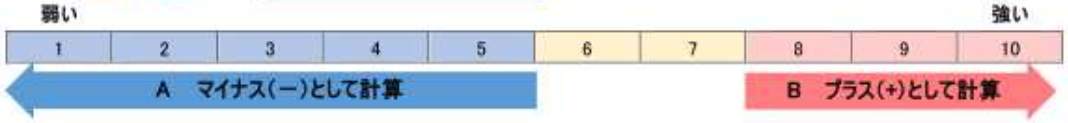
高い

・**地域感謝度**　（ -26.6 + 45.5 ）× 2.9 = +55

伊豆市をよりよくしようと活動している人に感謝の気持ちを表すとするとどの程度ですか。



算出方法　（ A ＋ B ）× 伊豆市の人口 2.9 万人 ＝ 地域推奨度・地域参加度・地域感謝度



（※1）「ｍＧＡＰ（エムギャップ・修正地域参画総量指標）」
東海大学教授の河井さんが提唱する成果指標であり、まちへの推奨・参加・感謝といった“意欲”を測るのが特徴である。

出典：令和5年度市民アンケート結果

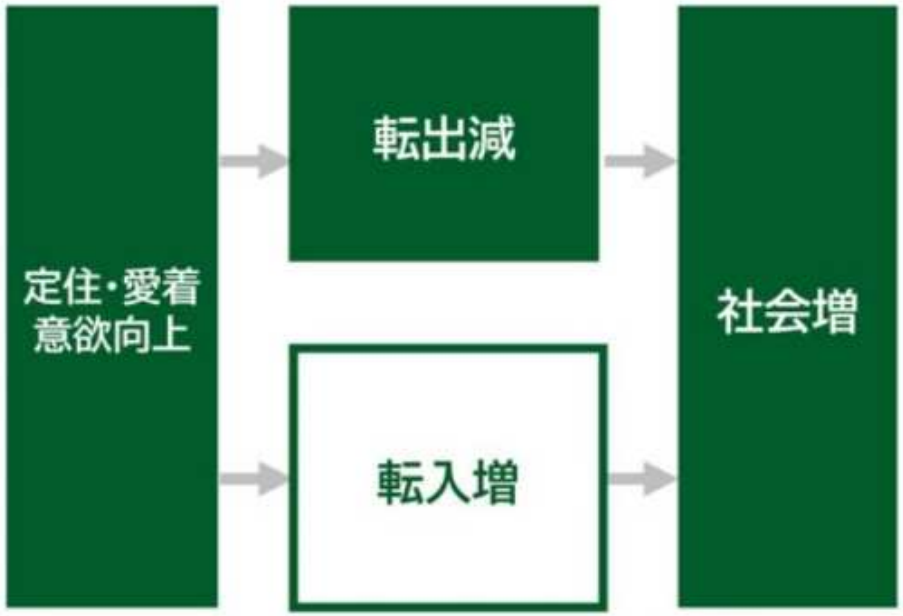
伊豆市を、もっと好きになるために

子育て全力宣言 伊豆市

【mGAPの効果】 埼玉県北本市参考

mGAP（推奨意欲・参加意欲・感謝意欲）

転出を減少させるために市民の定住・愛着意欲の向上が必要。測定の為にmGAP採用。mGAPの向上は定住だけでなく、まちの活性化につながる。



市内住民

転出の75％を占める20才から44才の転出を減少させることが最も費用対効果が高い。ターゲット世代とし、全世代と合わせ社会増減数を把握。

市外住民

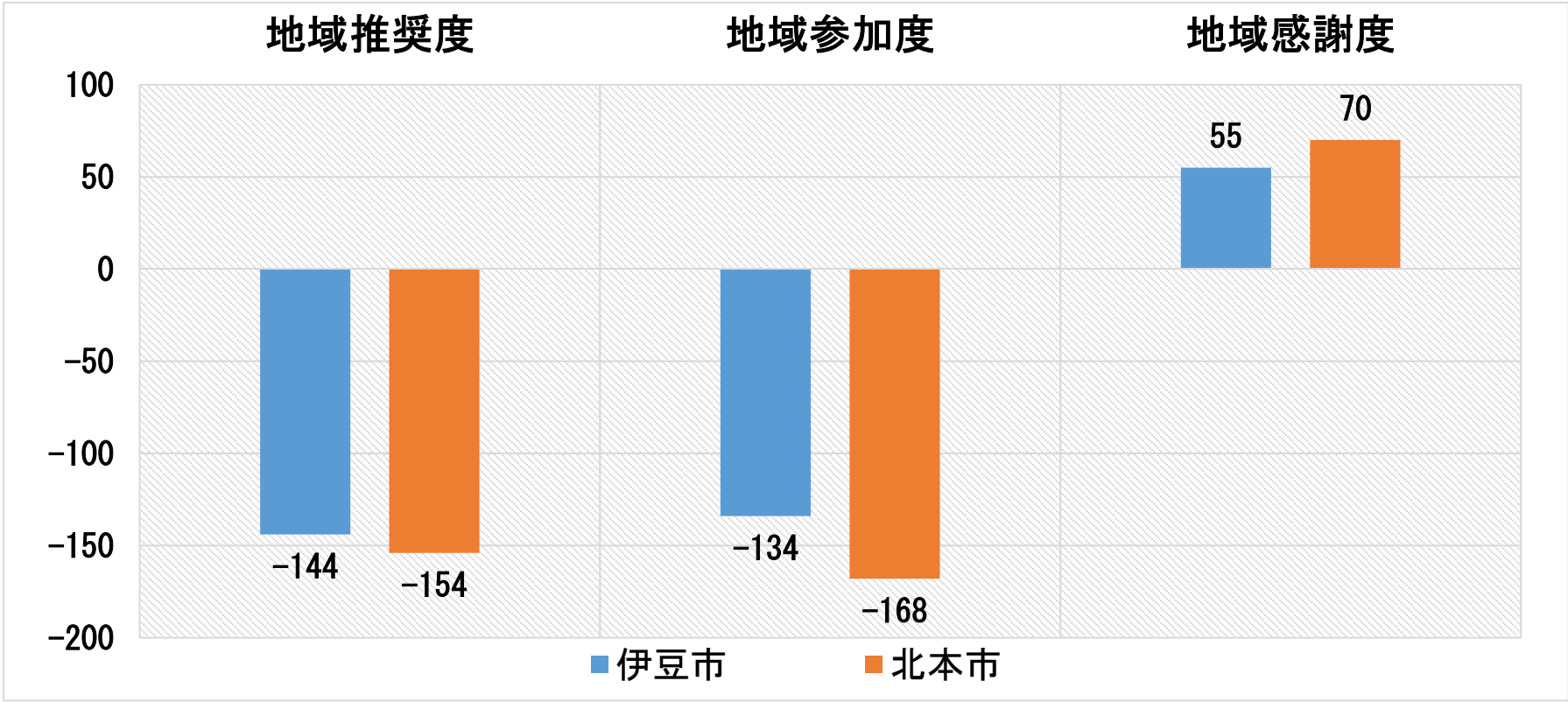
市外住民に関してはターゲットを絞る必要がある。ターゲット世代で高崎線沿線に住み、北本の住環境を好む層を把握し、的確にプロモーションを行う。

シティプロモーションの目的＝まちの活力維持のため、人口減少（主に社会減）を抑制

伊豆市を、もっと好きになるために

	伊豆市：令和４年度 （人口：２.９万人）	北本市：令和４年度 （人口：6.5万人）
地域推奨度	-144	-154
地域参加度	-134	-168
地域感謝度	55	70

※北本市の人口を2．9万人換算

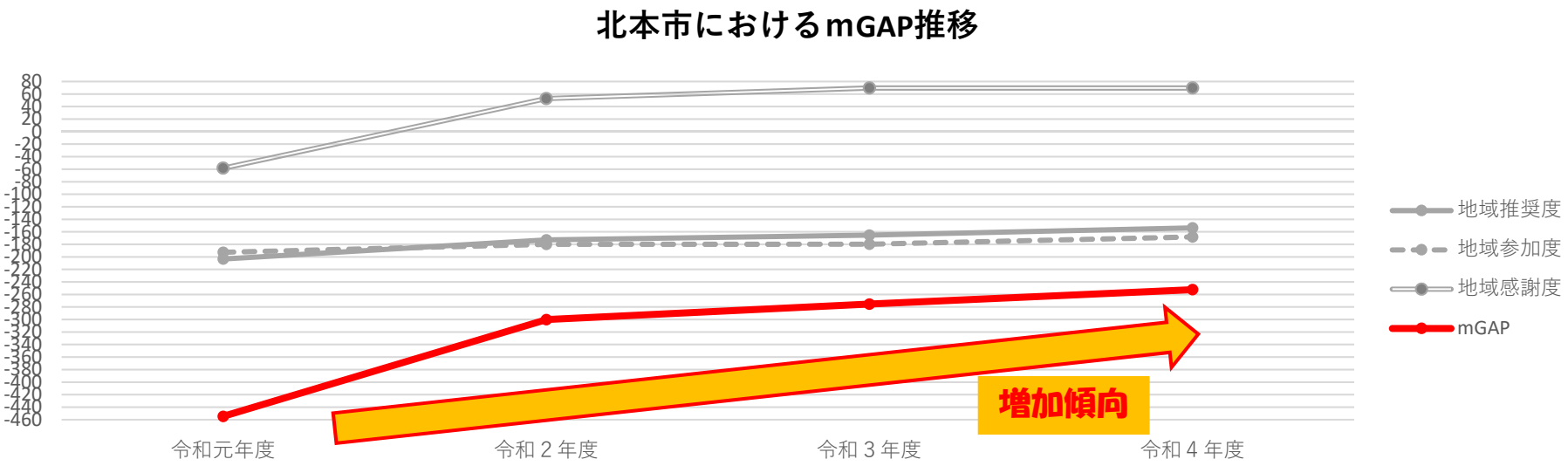


伊豆市を、もっと好きになるために

子育て全力宣言 伊豆市

【北本市のmGAP推移】
・北本市のmGAPは増加傾向、令和3年度にはターゲット人口である20～44歳の人口も社会増に転じた。 ※令和元年当時は、全人口の約5%が転出超過

【北本市の主な取り組み】
・北本市は、令和元年度市民アンケートにより、「地域感謝量」に比べ、「地域推奨・参加量」が低いという結果を受け、“まちへの愛着”を向上させるための市民と取り組む持続可能な地域づくりを開始。
・公式SNS等のフォロワー等の人数を増加させること。
・官民主催問わず、屋外マーケットを年間50回以上開催すること。
・市の魅力を発信する市民向けパンフレットを発行！



令和5年度　市民アンケート調査結果

伊豆市を、もっと好きになるために

・mGAP（まちへの推奨・参加・感謝の気持ち）を向上させるプロモーションに取り組んでいくことが大切！！　※特に地域推奨度を向上させたい

伊豆市民が伊豆市をもっと好きになる！！

市民がオススメしない所に
誰が住みたいと思うか！？

住んでいる人の口コミが１番！

市民の発信が１番のプロモーション

最も効果的な「人口減少対策」となる

伊豆市を、もっと好きになるために　～市の施策～

子育て全力宣言 伊豆市

昨年度の、まち・ひと・しごと創生総合戦略検討会議での委員発言を受けて

令和５年度は伊豆市への愛着を醸成させる事業を展開中！

・伊豆市が重点的に支援する切れ目ない支援のうち、妊娠・出産・子育てのPRを目的に市のプロモーション広告を設置する。

【主なR5プロモーション事業概要】

①市内各施設へのポスター配架　2023/7/1～2024/3/31
②伊豆箱根鉄道　2023/7/1～2024/3/31
③伊豆急行　2023/7/1～2023/12/31
④東海バス　2023/7/4～2024/3/31
⑤椅子カバー　2023/8/9～

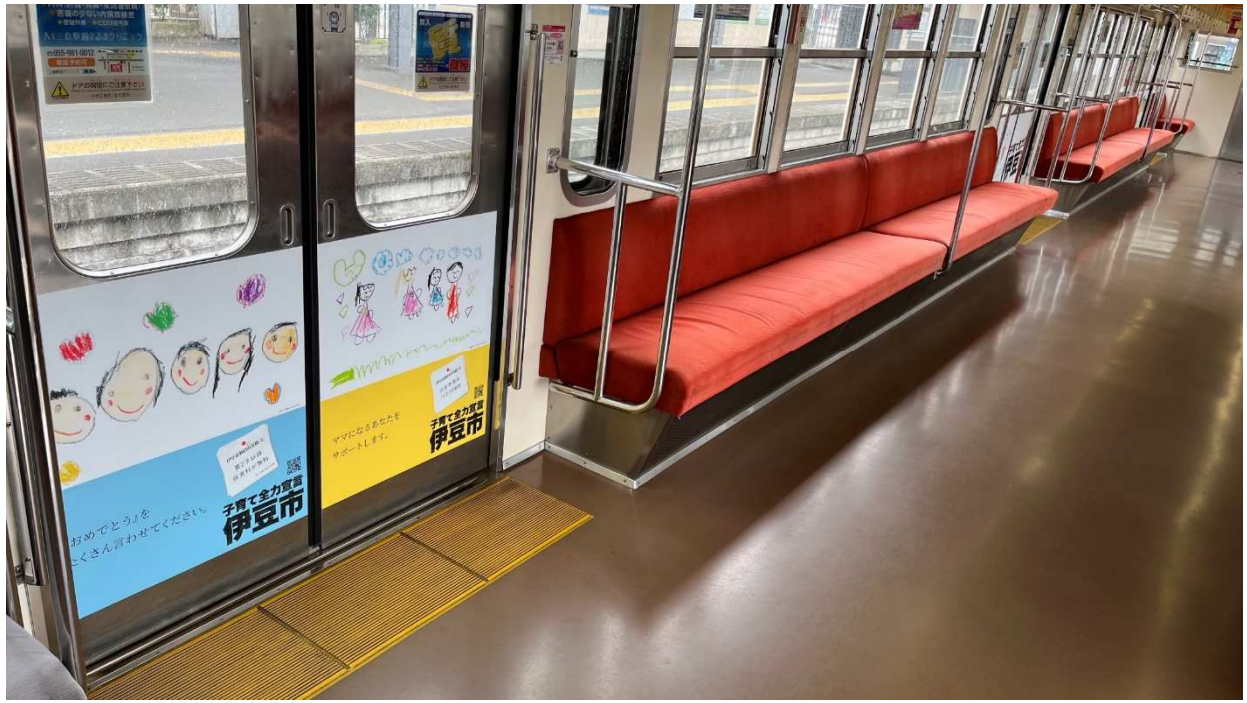


①市内各施設配架ポスター

②伊豆箱根鉄道駿豆線　修善寺～三島駅（車両内ドア）











③伊豆急行下田～熱海駅間（インターサイズポスター）

掲出の様子





８０００系インターサイズ















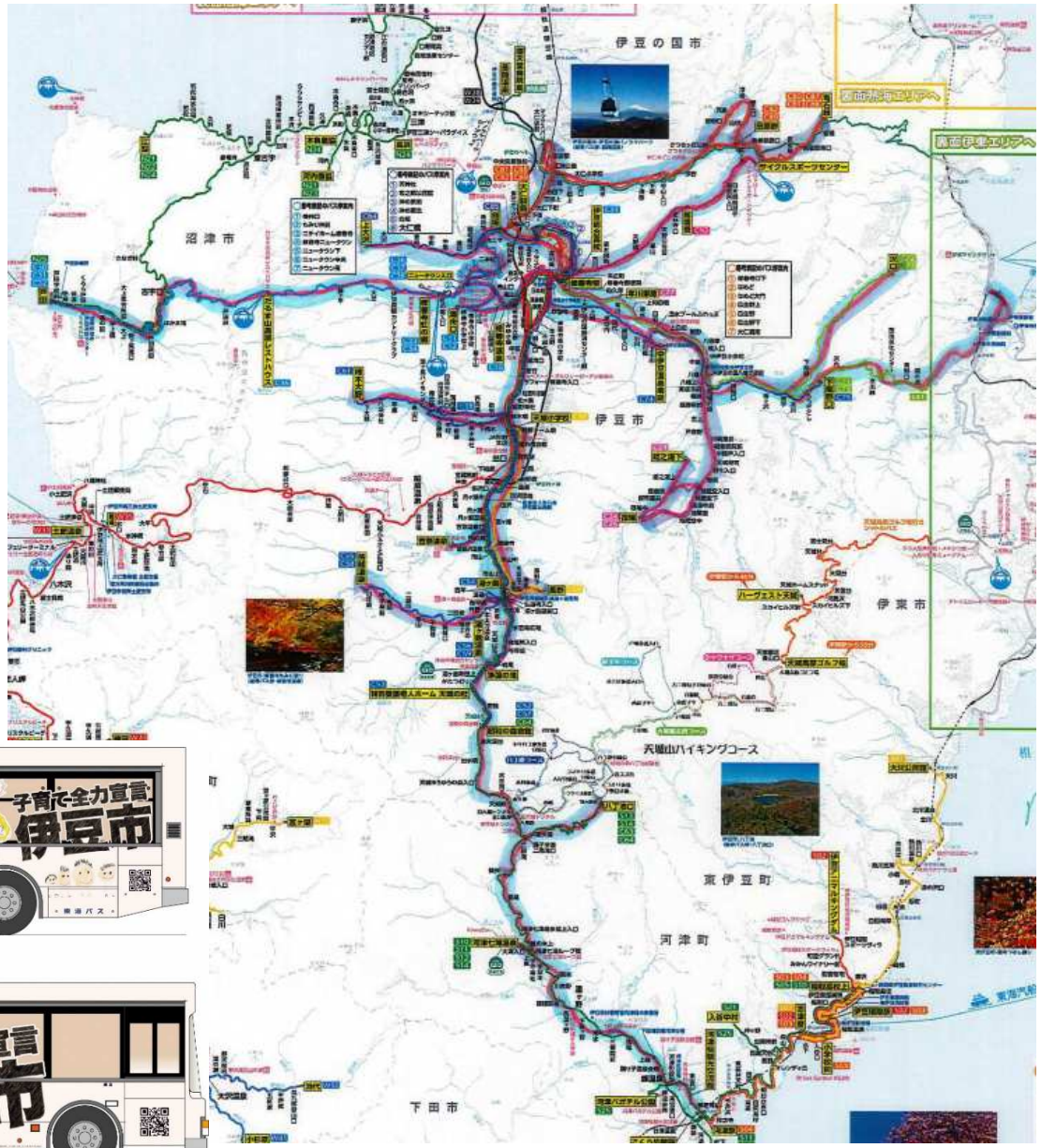


掲出状況：Ｒ５．６末時点 10

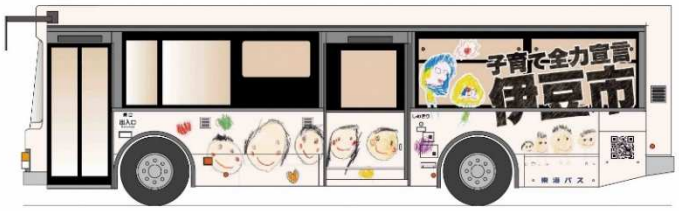
④東海バス（修善寺営業所路線内）

運行路線図　→

※青マーカー部











④東海バスフルラッピングバスお披露目会（R５.７.４）



参加園児：34人（４歳児：19人、５歳児15人）
※報道機関：静岡新聞、伊豆日日新聞

⑤椅子カバー



移住フェア



コロナワクチン予約窓口



修善寺図書館



子育て支援課

伊豆市を、もっと好きになるために　～市の施策～

子育て全力宣言 伊豆市

・伊豆市は県内トップクラスの子育て施策を展開中！！

令和５年度　子育て支援施策比較（県内３５市町比較※抜粋）

		伊豆市	伊豆の国市	長泉町	備考
不妊治療	補助金額	負担額　１００%補助（上限４０万円／年） ※通算５年まで	負担額　７０%補助（上限１０万円／年） ※通算５年まで	負担額　５０%補助（上限１５万円／年） ※通算５年まで	補助金額は県内３位 １位　富士宮（80万円） ２位　富士（50万円） ３位　伊豆市（40万円）
入学時応援金	事業名	伊豆っ子未来応援金	なし	未来っこ0・3・6歳児応援事業	入学時の補助金制度導入市町は少ない。 伊東市 小学校入学時　５万円 中学校入学時　５万円
	概要	小学校入学時に現金を支給する		出生、３歳、６歳に商品券を支給する。	
	補助金額	第１子　５万円 第２子　15万円 第３子　20万円		１人あたり　１万円 ※多胎児加算　１人／５千円 ※居住地加算　２万円	
保育料無償化	保育料第２子無償化	○	×	○	制度導入市町 長泉、静岡、湖西
出産時補助金	国補助以外の支援	出産準備金 妊娠22週に児童×10万円 ※国支援+６万円	なし	なし	東伊豆町 第１子　５万円 第２子　10万円 第３子　20万円 第４子以降　30万円
その他		休日保育 病児保育・病後児保育 子育て世代包括支援センター ファミリーサポートセンター	病児保育 子育て世代包括支援センター ファミリーサポートセンター 一時保育（保護者都合による）	遺児手当 病児保育利用料助成 未熟児養育医療費給付金 一時保育（保護者都合による）	

伊豆市独自調査による

【ふるさと学級】

・地元の魅力を発見し、伊豆市をもっと好きになる。

対　　象：市内小学校４～６年生
活動期間：年間８～９回の学習会を開催
目　　的：豊かな自然・文化に触れる
特徴的な産業等を知り、体験
することで地元の魅力を発見
伊豆市がもっと好きになる

【森林環境教育】

・教育の一環で地元の魅力に触れ、伊豆市をもっと好きになる。

・令和4年度に、中伊豆中学校の生徒（1年生）が、自分たちの生まれ育った地元の山・自然環境の資源である木材を使い、箸を作った。



令和4年度　森林環境教育の様子①



令和4年度　森林環境教育の様子②

伊豆市を、もっと好きになるために　～市の施策～

・伊豆市を、もっと好きになるためには、どんな取り組みをしたら良いか。

